

委員研修を行いました。

8月2日(水)に委員研修を行いました。今回は文部科学省コミュニティ・スクール推進員であり、北海道大学学務部長である出口寿久先生をお招きし、「地域とともにある学校づくり～コミュニティ・スクールと地方創生～」について講義いただきました。講義では、コミュニティ・スクール制度導入の背景、先進地の事例を交えながら仕組みや課題等をお話いただきました。



1. コミュニティ・スクール(学校運営協議会)とは

地域住民・児童生徒の保護者・学校の三者が協力し運営する地域の学校です。学校が地域コミュニティの中核となり、様々な方から意見や協力をもらい、学校活動・地域活動に活かしていこうという組織です。取組みは地域によって様々で、他市町村では今まである取組みを三者で連携したり、整理することなどに取組んでいます。

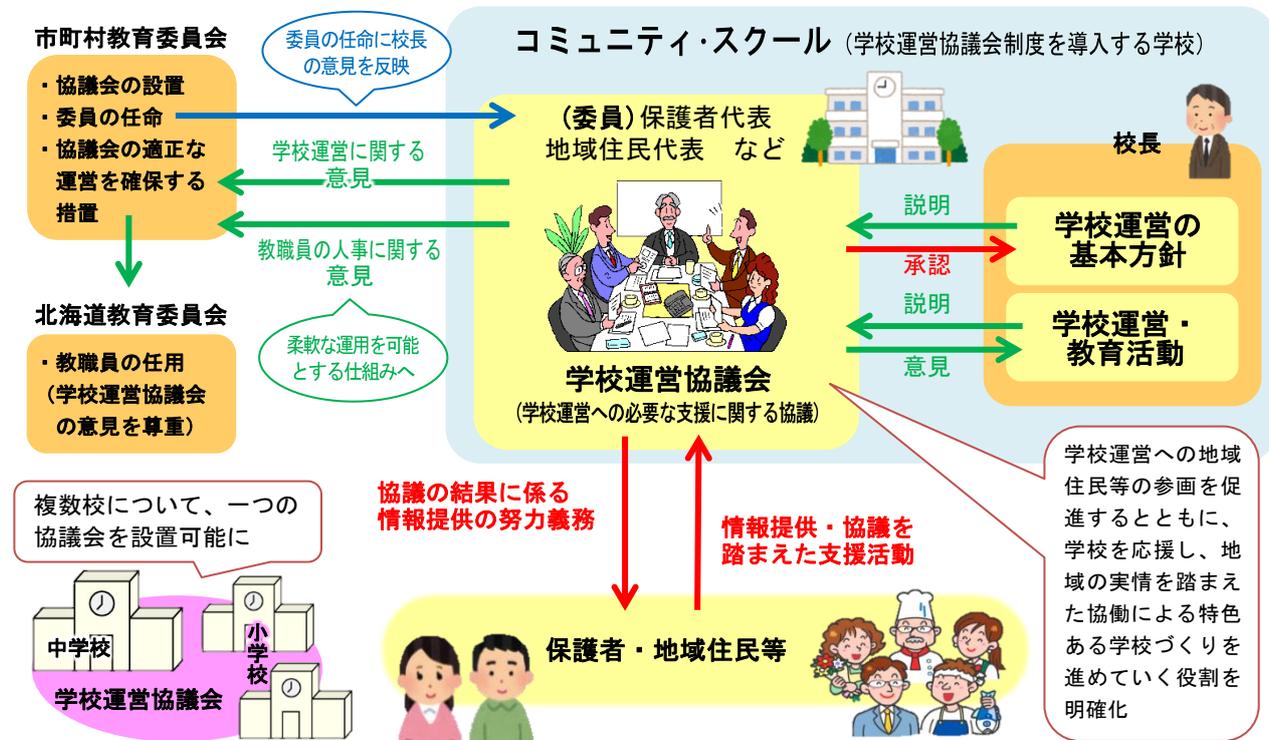
2. 学校・保護者・地域との連携が重視される背景

- 学校週五日制で地域や家庭の機能に期待がかけられている。
- 地域の実態に即した教育活動を行うため、地域の方々等との連携が重視されている。
- 地域活性化の中核機関として学校に期待が寄せられている。

3. 地域・家庭の学校参加の意義

- 保護者や地域住民の意向は、学校や教職員の偏見や独断を調整する役割を果たす。
- 保護者たちの意見が学校の教育活動をより効果的にするためのアイデアとなる。
- 保護者や地域住民が学校のよき理解者となり、子どもの教育に対する自覚を高めることが期待される。

4. コミュニティ・スクールの仕組み（H29.4 地教行法改正後）



〔編集後記〕通信第2号をお届けします。8月2日に研修を行いました。委員の方々とCSの仕組みや体制づくり、他の地域の実践を参考に勉強しているところです。今月末には、登別市へ視察研修に行ってきます！（岩内第一中学校 千葉）

